指導案の作成例（小学校）

第　学年　体育科（保健領域）学習指導案

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日　時：令和　　年　　月　　日（　）　　校時

※「大項目」を単元・内容のまとまりとしてとらえる。

例：大項目「体の発育・発達」

　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　 場　所：○○市立○○小学校　○年○組教室

対　象：○年○組　○名

指導者：（職名）○○　○○

１　単元名　　「体の発育・発達」

※技能がない単元は知識のみ。学習指導要領解説に合わせる。

２　単元の目標

　○　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識）

　○　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（思考力、判断力、表現力等）

　○　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学びに向かう力、人間性等）

※学習指導要領解説の□囲みを参考に示す。語尾は、指導者の立場で書き、「～できるようにする。」と記載する。

※「学びに向かう力、人間性等」の目標は、学年の目標を参考に作成する。

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）【評価規準に盛り込むべき事項】から、○「知識（及び技能）」、○「思考力、判断力、表現力等」、○「学びに向かう力、人間性等」の内容を記載する。

※教科の目標と評価の観点を混同しない。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 教科の目標 | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |

３　指導にあたって

（１）単元観

①指導者から見た特性

②児童から見た特性

（２）児童観

※必要に応じて記載

　　　　①学習の経験状況、興味・関心、意欲、学びの状況、男女数

②本単元における児童のよさと課題の整理

③質問紙調査や調査結果（客観的な数値も交えて）を具体的に記載する

　（３）指導観

　　　　①「単元観」「児童観」を踏まえた指導の方向性及び具体的な指導の手立てなど

　　　　　（協議主題との関連も踏まえて記載する）

４　内容のまとまりごとの評価規準及び単元の評価規準

アイウで書かれていることを３つにする。

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）から引用すること。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 内容の  まとまりごとの  評価規準 | ・  知のみ→～している。  知と技→１文にする。  「言ったり書いたりしているとともに、～ができる。」  ※指導要領解説に合わせる。  ・ | ①見付ける。  ②思考・判断・表現の内容 | 「粘り強く」と「自己調整」を一緒に見取るため、１文にする。 |
| 単元の  評価規準 | ①  ②  ③ | ①  ②  ※児童や学校の実態を踏まえ、同資料の【評価規準の設定例】を参考に、各学校で作成すること。 | ①  評価規準の語尾は、「～できる」（技能）、「～している」（知識、思考・判断・表現、「～しようとしている」（主体的に学習の取り組む態度）と表記する。 |

５　指導と評価の計画（○○時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 知 | 思 | 態 |
| １ | 【ねらい】  ※ねらいは教師の立場から書く。  ○  １  ※学習活動を書く。  ２  ３  ４ | ①観察 |  |  |
| ２  本時 | 【ねらい】  ○  ※評価は原則１時間に２観点以下とし、複数の評価を設定する場合には、評価方法が重複しないようにすること。  １  ２  ３  ４ | ②観察 | ①カード |  |
| ３ | 【ねらい】  ○  ※学習活動には主な児童の活動を記述。  ※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。  １  ２  ３  ４ | ③観察 | ②カード |  |
| ４ | 【ねらい】  ○  １  ２  ３  ４ | ④カード |  | ①観察 |

※「主体的に学習に取り組む態度」については、単元全体で評価していくため破線で示している。

※「知識・技能」「思考・判断・表現」については、各授業後や単元終了後に学習カードやノートの記載等からも評価することで評価の信頼性を高めることができる。

６　本時の学習（○／○時間）

　（１）本時のねらい（※指導者の立場で書く）

・～することができるようにする。

（２）本時の学習評価（※学習活動に即した評価規準から引用）

・

（３）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容及び学習活動　◆指導上の留意点 | 評価規準及び評価方法 |
| 導  入  ○  分 | １　前時を振り返る。  　　・体の変化には年齢に伴うものや、個人差があることを学んだことを振り返る。  ２　本時のねらいと評価項目の確認  めあて：○○○○○○○○○○○しよう　　（※児童の立場で書く）  評　価：上記の（３）と同じ表記　　　　　　　　　　（評価項目） | ※学習内容を身に付けるための活動を時系列で示すこと。 |
| 展  開  ○  分 | ３　男女の変化について各自で考える。  ・大人に近づく男女の体つきなどの変化について、付箋紙に書き、ワークシートに分けて貼っていく。  　　◆前半の学習や生活体験などを基に、各自で予想し、男女の変化の特長について書くよう説明する。  ４  ※学習活動に沿って、教師の指導・支援上の配慮事項などを書く。  ※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。  ○思春期には、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること  ○変化の起こり方は、人によって違いがあること  ５　学習したことを生かして、アドバイスを考え、ワークシートに記入する。  　　・体の成長に不安を感じている児童の事例を用いて、アドバイスを考えて記入する。 | おおむね満足  ※評価規準の判定基準「Ｂ」を明記する。  ※目指す姿がＢ評価のため1番上に書く。  十分満足  ※「Ａ」は「Ｂ」より質的な高まりを意識して設定する。  努力を要する児童への手立て  ・  （ワークシート）  ※「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した児童への具体的な手立ても記す。 |
| ま  と  め  ○  分 | ６　本時のまとめ  ・授業を振り返り、学習カードに記入する。  ・学習の成果やまとめなどを発表する。 |  |

※本時のねらい（児童のめあて）、学習内容及び活動、評価規準及び評価方法を関連付けること